



【profile】あべ・たけし  
1973(昭和48)年生まれ、伯父ケ倉出身。猪苗代高卒。  
高校卒業後、埼玉県の工場に就職。2年後に退職し、  
平成6年4月、稲川酒造店に入社。平成13年12月  
から杜氏を務める。全国の鑑評会で金賞6回、入  
賞2回ほか、受賞歴多数。

## 「町の元気につながる酒造りをしたい」

### ハーイ、きらりさん

## 杜氏 阿部 毅さん(伯父ケ倉)

### 伝統ある鑑評会で1位に

ことしの4月、岩手県の南部杜氏協会の第96回自醸清酒鑑評会が開かれ、町内の酒蔵、稲川酒造店が出品した「稲川百十五」が純米酒の部で1位に輝きました。

伝統ある鑑評会での最高評価に同蔵の杜氏、阿部毅さん(伯父ケ倉)は「とても名誉なこと。今まで頂いた賞の中で一番重みがある」と語ります。

「稲川百十五」には、国道115号沿いにある、阿部さん

が所有する水田で栽培した酒米「夢の香」を使用。「初めて米作りから携わった酒で受賞することができてうれしい」と阿部さんは顔をほころばせます。

### 27歳の若さで杜氏に抜擢

もともと酒造りに興味があったという阿部さん。平成6年、稲川酒造店に入社すると、酒造りの面白さにみるみる惹かれていきました。その時、酒造りの最高責任者である杜氏を務めていたのが南部杜氏。阿部さんは

### 酒造りで町を元気に

その仕事ぶりを見て、「いずれは自分も杜氏になりたい」と憧れを抱き、その後、働きながら3年間、県のアカデミーに通って酒造りを学びました。そんな阿部さんに大きな転機が訪れたのが、平成13年の12月。酒造りのさなかに同蔵の杜氏が病に倒れ、急きよ阿部さんが杜氏を務めることになりました。蔵入りして7年、27歳という異例の若さでの大抜擢。「あの時は無我夢中という感じで、プレッシャーも相当なものがありません」と阿部さんは当時を振り返ります。

杜氏を任せられ、ますます酒造りにのめり込んでいった阿部さん。杜氏になって4年目の平成17年には、県の鑑評会で1位を



阿部さんが手掛けた銘酒の数々。「七重郎」は稲川酒造店の当主が代々襲名する名を冠した、蔵を代表する地酒。「稲川大吟醸」(左)はことしの全国新酒鑑評会で金賞を獲得

獲得。以来、県、東北や全国の鑑評会で数々の賞を手にしてきました。

「手を抜かない、妥協しない酒造りを心掛けています」と話す阿部さん。一方で、塩谷教子専務は「酒造りは10月から5月末までかかるのですが、毅くんは毎年、作業がひと段落する春にはやせ細っていて、倒れないかとひやひやしています」と阿部さんの仕事っぷりに心配の声を寄せます。

「できた酒を飲んだ時や『おいしい』と言ってもらった時はやりがいを感じますね。疲れも吹き飛びます」と阿部さん。

「町が元気になるような酒造りをしていきたい。ゆくゆくは猪苗代が酒米の産地になって、町の振興につながれば」と夢は広がるばかりです。



開会式後、作品について解説する川井さん(左)

## Pick Up

### 今月のイベント

## 和みいな一周年記念 川井源治さん作品展

元水彩連盟会津支部長の川井源治さん(五十軒)の絵画展は6月9日から21日まで、和みいなで開かれました。

この絵画展は、昨年4月に開館した同館の一周年記念事業として開かれたもので、川井さんの平成23年以降の作品33点が展示されました。

初日の9日、同館で開かれた開会式では、川井さんが「このような盛大な絵画展を催していただき、大変感激している。97歳まで生きてきてよかったと実感しています」とあいさつ。引き続き、絵画展の協力団体で、川井さんも所属する猪苗代地方史研究会の江花俊和会長らがいさつし、テープカットをして開会を祝いました。

開会式の後、川井さんが作品の一つ一つについて解説。水彩、サインペン、クレヨン、落ち葉や段ボールなど、さまざまなものを使って表現された作品の数々を、ユーモアあふれる語り口で説明しました。

会期中には多くの人が訪れ、川井さんのユニークな発想と豊かな感性でつくられた作品の数々を、来館者たちがじっくりと鑑賞していました。

6月14日には、「生活における色彩学」と題して川井さんが基調講演しました。

まちの応援マガジン いなわしろ

## 広報 猪苗代

Jun.2015  
7  
No.657

### 今月の表紙

6月、町内の各小学校でプール開きが行われ、子どもたちが待ちに待った水泳の授業が始まりました。この日は一日中くもり空で、子どもたちは「寒い」「冷たい」と言いながらも大好きなプールを思いっきり楽しんでいました。



【撮影日】 6月30日  
【撮影場所】 緑小学校



表彰式に出席した阿部さん(左)と稲川酒造店の塩谷隆一郎社長(5月22日)